

学校だより

6月号

一中の桜並木

令和8年6月5日

「教育目標」

考える人 思いやりのある人

助け合う人 成しとげる人



連雀学園三鷹市立第一中学校

校長 宮城 洋之

「一中生らしさ」とは？

校長 宮城 洋之

5月23日(土)の体育大会は肌寒いくらいの天候でしたが、校庭では生徒たちの熱戦が繰り広げられました。当日は1000名を超える保護者の皆様にご来場いただいたことに心より感謝申し上げます。

☆ ☆ ☆

一中の体育大会は、令和6年度から現在の形式になりました。それまでの体育大会は開会式の後に「800m走」「1500m走」「100m走」という個人種目が続く「記録会」に近い行事だったのですが、今の3年生が入学した年から「いかだ流し」「大縄跳び」「むかで競争」といった団体種目が中心になりました。実は、これはその前年(令和5年度)の生徒会役員会の呼びかけから始まった「より良い一中」を目指す活動がきっかけになっています。

当時の生徒会役員が話し合った「より良い一中」のイメージの一つは「憂鬱になりがちな月曜日の朝でも、みんなに会いたくて楽しく登校できるような学校」というものでした。では、どうすればそんな一中にできるのか？「みんなが互いを尊重し合う」「そのためにコミュニケーションを大切にしよう」「みんなで意見を出し合い、生徒の力でより良い一中を目指そう」……

こうした話し合いを受けて、学級や学年が、生徒の力で問題解決に取り組む集団になるための「チームづくり」の場として体育大会を位置付けました。個人種目から団体種目への変更は、学級で話し合っ、作戦を練ったり、改善策を考えたりできるようにするためです。今年の体育大会、来場された皆さんの目には一中生の姿はどのように映ったでしょうか。

☆ ☆ ☆

生徒の皆さんは自分たち「一中生」についてどのようなイメージをもっていますか。

私がこれまでに会った多くの学校の生徒と比べても、一中生には「礼儀正しさ」「素直さ」「規律」といった優れた点がたくさんあるのですが、なかなか自分自身を客観的に見ることは難しいものです。では、入学当初に見た上級生の姿はどうだったでしょうか。入学式や体育大会などの学校行事に向かう姿など、「さすが中学生」と思う場面はあったのでは？

現在、生徒会役員会が「目指すべき一中生の姿」(一中生らしさ)をみんなで考える取り組みを進めようとしています。「より良い一中」を作っていくのは一中生自身。では、皆さんはどんな一中生を目指しますか。

令和5年度から始まった「より良い一中」を目指す活動は、その後、校則の見直しや委員会活動の活発化、暑さ対策のためのハーフパンツ・紺色ポロシャツの導入(昨年度)などに広がっていききました。こうした活動をさらに展開していくためには、その先にある自分たちの目指す姿が見えていることが大切です。

「目指すべき一中生の姿」(一中生らしさ)とは何ですか？

皆さん自身の考えを聞かせてください。